

編集後記

『年報』第35号をお届けする。前年度もそうであったが、今年度もまた、所員からの投稿原稿で『年報』を編集することになった。来年度は、統一テーマのもとに「特集」を組み、グループ研究の成果を報告できるよう、各研究グループの方々に、ご検討とご協力をお願いしたい。

本号の編集経緯について、以下簡単に記しておく——例年通り、昨年5月に投稿希望を募った結果、全体で14件（論文12編、研究ノート2編）の執筆申込みをいただき、近年にない良好な応募状況に編集子はうれしい悲鳴を上げることになった。しかしその反面で、刷り上がりページ数は、ゆうに450ページを越え、何人かの執筆辞退者を見込んで、非常に大冊な『年報』になることが予想されたので、編集子は執筆希望者に、可能であれば執筆枚数の削減を、あるいは少なくとも予定枚数の範囲内での執筆をお願いした。また例年おこなっている外部への書評執筆依頼も今年度は見送ることにした。原稿締切（10月20日）の前後に、4名の方から執筆辞退の申し出があったが、当初予想していたよりも多くの原稿が集まり、また期日までに間に合わなかった原稿も、その後比較的短時日のうちに提出された。また校正作業もおおむね順調にすすんだが、再校の段階で常識の範囲をこえる大幅な加筆がおこなわれた論稿があり、印刷所をあわてさせた。再校段階での大幅な直しや加筆は、おたがいに避けるべきであろう。ともあれ完成した『年報』は400ページにせまる大部のものとなった。執筆者のご協力に感謝するとともに、適切なページ数にまとめきれなかった編集子の不手際を反省せねばなるまい。

すでにご承知のように、この3月に、社研事務室は長年住み慣れた6号館1階から、旧図書館4階に移転する。多少不便になり、これまでのように教職員食堂での昼食の後、コピーや雑談に気軽に立ち寄ることができにくくなるが、それだけに所員の方々にはより足繁く社研に足を運ばれることをお願いしたい。

最後になったが、今回もまた社研職員の竹内佐和子氏、公人社の大出明知氏にたいへんお世話になった。心から御礼申し上げる。

（酒井 進）